寛德故事

三十八

内閣文庫
舊號 和15251
冊數 63(36)
函號 150 12

庫 内閣文書
函 五
架 四
冊 六三
號 一九三九
類 和書

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

武德成業卷之三十八

伯耆守加藤正脩編

淺草文庫

内閣文庫

日本政府圖書

四月大十七日松平五郎左衛門尉忠政（本名大須賀松平康高カ養子）從五位下ニ叙シ出羽守ニ任ス（忠政實ハ榊原式部大輔康高カ長子外祖父大須賀五郎左衛門尉康高カ養子トナル）（家忠日記）

（大元實記）

十月十八日夜大閤秀吉公の廟社へ豊國大明神と在り社号の勅許有り十月翌十九日遷宮乃礼武家より秀頼公より使福島左馬之助

此の政所より吉丸紀伊守吉代社家へ此日

家康公より豊臣へ御家諸公並明神へ御奉納御ゝ及中

来らの社家社僧おに之を悉御施物公成下文ゝ有之

照高院へ御書を以天台宗乃論議を被仰付見へ御陽城
をもしく右豊国社号を被秀吉公在世に付り新八幡宮と
有し社号被称歟右陳子細有しかも勅許無之所なり
一説かとも有しなり也
家忠日記
廿日豊國大明神ニ於テ四座ノ猿樂アリ洛中ノ男女群參シ
テ是ヲ見物ス廿二日高力土佐守正長卒ス四十二歳
天元實記
家康公より伏見を番衆に外に一人御用に被
有し旨を所司代増田右衛門尉大坂より被呼寄中西人数
御城を以朝鮮征伐に付渡海へ御陣形に立陣戦功有し
面々に被仰付人間に立世に成しに西笑承兌と云僧
ハ叶成に被仰付今度秀頼公幼年に被成候に付手成に
責て休息に成しめに立西笑を被相頼来に我が
ケ松に中旨を中方へも相頼有し処者へ西笑と申渡
を以て内朝鮮へ被陳被仰勤に付面々に成て朱秋中を
休息に被仰松下に中渡に是に付輝元秀家両人に朝鮮
在陣中久に名護屋に被相詰候に付大坂より
被相詰候方に成に付家入に被仰付の法名のに
我等義に有し所に高麗に乃東に中相詰に上

自然おのを一通り流れあるべきを以て各中へ五人宛
一人宛四郎兵衛へ休息あるべきを以て石州浜田
大坂へ向て大老中へ中達の処輝元秀家等関東時
の初君の内事一通り有り此時長盛あるべきを
此四郎兵へ御咄中ゆえ有り其在世
内府公者中へ右一通内意一通秀忠殿へ下度
の旨を以て飯塚伝兵へ宛を有り知らせに成て
故大閤の在世一同例を行せ元中と始国を彼方に
秀頼公より此所行ゆえ内府殿へ成敗
沙汰下ゆえ大坂より中へ伝聞ゆえ工夫
を行中へ内府は故大閤の御命令を遵守し切入部
ゆえ内府公より一通一揆有り
須地巡見ゆえ
内府公より一通一揆有り
ゆえ頼ゆえ浜田城所へ
利長より亡父大納言海道所へ
同名能登守芸州所へ
の形成
内府公へ陸奥の
ゆえ通ゆえ

家康公ニハ御清洲ニ[illegible]ニ秀頼公[illegible]次第
度々来ル二月ニ至り京の[illegible]ニて湯掛以後参勤て二度目[illegible]
秀頼公[illegible]ニ候[illegible]来て[illegible]中へ[illegible]
[illegible]中ニ大勢ニ中ニ[illegible]帰城有之[illegible]中[illegible]長束
大蔵少輔[illegible]
此[illegible]待[illegible]逗留[illegible]八月初乃比　内府公大坂へ[illegible]向て[illegible]
家康公ニハ[illegible]院[illegible]久[illegible]御参
内[illegible]方[illegible]中[illegible]読[illegible]て[illegible]
[illegible]上京[illegible]中ニ至て[illegible]

此処ニ来ル十四日参
内て[illegible]旨勅使ニ付　家康公御参
内ニ進
禁中より[illegible]院の[illegible]の後へ入らせ[illegible]日乃
暁[illegible]御[illegible]十五日八幡へ御神[illegible]
御城[illegible]八月十五日[illegible]
[illegible]人[illegible]の[illegible]延引
ニ進聖十六日[illegible]大坂町[illegible]中[illegible]人
[illegible]大坂へ[illegible]

被成候ニ付而天下之儀ハ皆々御心得次第
病氣ニ付於伏見相果候九月初而
秀頼公御機嫌伺被為成御下り被遊候ニ付
着ニ付市正方ニ御着可被成市正屋敷及御談合之処
乃ハ不承知ニ而石田治部少輔屋敷ニ御着被遊
逗留中ニ御淀殿ニ御着可被成候得心之由御申候
而御中大坂へ御出石田屋敷ニ被為御法度被仰付候
御着之御事ニ而　家康公ハ九月七日ニ御着被為遊
候川ヲ御越ニ而御目見申上候清正屋敷ニ御逗留

其外御旅館ヘ前田肥前守大坂ニ大名小名御出ニ付
被為其時御門前ニ馬ヲ立所も無之程也
夜ニ入候ハ増田長盛長束政家両人御出
被密談ニ候有之両人御宅ニ而浅井伊豆政本多
正信二人へ本多佐渡守被加有之御側近く召寄られ有之
両人来て申ニ付加州利長より浅野長政ハ内談
有之明後九日本丸へ御登城之節於ては土方勘兵衛大野
修理両人ニ申付殺害致させ候由の儀各如何存候
其時御意の下より佐渡守申上候ハ両人ニ申

御前へ対し御取成を以て上様へ御届申上候
後藤筑前守殿先日病気ゟ快方に相成
伏見へ罷越候人数を以て御屋敷忠勝ニ人
御上洛病気ゟ快方に相成候ハ
掛ケ合ニ相成候ハ
発し南し伏渡ゟ通伏見の人数ハ御上洛の
伊京屋書状ニ有之石田治部宰相秀家ハ方へ
ニ御合ハ有屋書状ハ
以前小伏見へ秀家ハ

秀家ハ
後藤中を
方ゟ屋書状
西城ハ
城ハ重汗時
家康公ハ八月ハ
長束大蔵ハ
羽柴
重井伊

接或人出法之式以手搦の門より番人出法と流方之式長松と
中上の大金角の迄差くに及
家屋之武器出上りし出法
庭内の上に酒のくすと解出法と流方之式上下長松堀田長東西人出法と
お出接拶中上更らう西人方清出法と流方之式浅野弾正と
出方之式長松堀田長東西人出法と流方之式浅野弾正と
夜中より御帰りしひ少相
之式長松堀田長東西人出法と流方之式浅野弾正と
御帰りしあの空家より廊下へ出掛之式長松井伊掃部頭と見返
出法番頭へ向し各文上方之式人と同之式浅野七人と流
中之式長松出法之式長松と秀頼公中上之式長松出法

有り酒井酒後方彼仁之式向人白之式
彼用人出て出掛子細有之式
之式長松出法之式番頭と同之式右七人と同之式
井伊掃部頭殿之式人と流之式秀頼公長松出法之式障子
一重上方之式長松出法之式
子平蔵の廊下より帯を出之式右の方へ出法之式人数有之式
有馬人数法之式之所無事門上上之式酒井酒後方之式
此大番所之式方上上之式大炮之式之式出方之式
者之式書之式上之式伊酒後方之式中の口より出法中之式同

道しるべを立て各に作るべき旨を申し出る間、[illegible]
四郎左衛門を召連れ清水落髪（出家）致されたく候ヘ共、
四郎左衛門不肖者にて御家を潰し我一人と沈下いたす者石田の大
家老に居候て石田豊前の家来に成候ハヘ、
大坂の半数人に所を渡し申候ハヘ、
清水ハ[illegible]
家来を兼て仕置申候ハヘ、
[illegible]十一日に出逗留致し十二日に朝大坂を出立致候ハヘ、
[illegible]
[illegible]
家来に成田右衛門村長次人義西人に

[illegible]加州利長殿[illegible]野長政殿[illegible]方大老[illegible]中納言
我が[illegible]を敵害の為殺害の陰謀[illegible]各の心底[illegible]
和道[illegible]悪心味とおぼしき旨[illegible]
[illegible]
[illegible]
西人を[illegible]
[illegible]
西人[illegible]
[illegible]西人[illegible]遠国大名[illegible]方へ出[illegible]

小して紀州との仰こ有由人し迫頂寛仁〻思召たく〻存ぜ
ハ接拒中と〻後大方ち彼竹義宣大野ち結城晴朝由来〻
仰付〻大師ち十月二日ち京ハ同三日大阪ち立て配所へ被ハ
時〻〻織野長政堺田長政へ中〻〻ハ我中ぜ者こ〻ハ通
先出陣ち仕ち桂左京亮〻〻陣代相勤ハ様ちの仰ち朋輩ハ
由度〻及ひ申候ハ清左衛門ハ高麗ち渡ち〻ハ疫ち〻ハ隠居
逼塞〻〻〻〻〻〻引籠ぜ五度不相勤ハ只ハ近ハ九様〻
頂ち下ハ御免〻〻一日〻〻相勤来処ハ如ち申ハ〻〻
所ぜ彼者裏切ハ〻〻〻〻〻〻清左衛門事ハ清左衛門

相勤中仕合〻〻ハ〻〻〻〻

内府ハ〻〻ハ高麗ぜ在中ハ
清左衛門ハ〻〻世間ハ左京亮へ出聞ハ仰付我中ぜ隠居ハ先
ハ〻〻ハ様〻〻ハ〻〻ハ人〻〻〻〻〻〻
家康ハ仰付ハ事ハ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻ハ我中一様ハ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
格別〻〻事ハ高麗ハ甲州へ〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻十月二日大阪ハ〻〻〻〻甲府〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻武功〻〻者〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

御とゝめおかれ候に付長政父子ハ右先達て大坂より中来候御
右京羽幸長へ申付今度長政公は幽閑し候也
内府公ゟ御不和之御旅行ニ付て之儀ちゝ此御沙汰仕候と御機嫌と候
よし有之候ニ付武蔵府中ニ而逼塞被仰付候ニ付而幸長実は候
内府公の御事ハ御不及申秋ま観し申候ニ付而長政公とも二皆々
古むしかの者合候ニ付て万払し有之労し及し候よしニ付而
不譜申候氣遣不被成右遊申候而幸長ニハ其節ハ候而府中
一統之ゟ候ニ御様子承り而知り候而長政幽居之後又七日之内
江戸中納言様御使者有之其の後ニ甲府之町中御機嫌

被掃除松木と申家人乃家を止宿し申付父子共二御使者
池田之御使として申候へ由　内府公　秀忠公御父子様
よりの御使者大久保治部少輔ニ而致越候而御馬ニて外錦小袖
ほとし段巾襟巻被下候而夫ゟ被遣候而是候而御拝領ニ而不届
被仰付候候　内府公ニ御前向き候ハ御別條無之
御座候而家中何之も御心にて之後長政公家老浅野孫左衛門
是ハ御礼ニ参上候とて也
右の頃之時代之記録ホニ付相尺不申候ニ付而秋ホ前之役遠州
廣濱にて其之候花永原之右衛門と申者人有之秋ホ十万院へ

濃野生明夜話ニ出タリ雖浪花を主に少しと有し右乃
兵右衛門へ出浦に飯を以出記ス

右　家康公浅井氏城の別人数に出家中附まとし酒
秀頼ハ出対面に出次に右を推参に成なのよし子細有
る細に有に通の所に古人間に浅井長政立所に出賞さ幼
の秀頼を出あるに子家出法敗　家康公に浅井氏合おさ
まとし浅長以の所服立まし　みまり乃面へ穿鑿
あり各沙汰通り迷惑に及の漳正中に出成始終聞
に前に来なるまし記有有様に中へ走に入まり

走人ともに記道理有り左程有て秀頼ハの法者
子ハ出ハ左ものの有に出ハ各ハ出ハ有ハ
系ハ人科を負て乃様に出事に出果に出ハ浅様
浅長へ中入に出ハ浅長ハ出ハ秀頼を大切
思に出ハ出ハ天下に出大様を様に法様に出ハ世界乃
長いまに之来しに出ハ方様に企法に浅に出ハ
中有に成見へし為を使ハを漳正出ハ様に番組に上
如の様に科に出ハ法様の法　家康公に出ハ浅長
に出ハ入に酒に中に出ハ漳正様に出ハ天間法に出ハ恩の

ものにたゝく様子もなきことのに致しなく佐竹の家族
ゆゆしき積りかくし右様に悪事を巧む者にてはなく知
恵もなきもの中にもあれども其故科人として中々もしれ
謀叛逆心なきといふ事も詳らかならず候然れ共方々より
致所何ぞの由にて科にて御仕置に付ては其佐竹に候へ共の上は義宣
御事甲州に御引取なされ之まゝ古方より常州水戸へ入替は武州
岩城へ名跡居られ御付義宣中にも御申されて方々野西人もた
繕ひ致し抱置く人世話の所地に居候此段自由にて御
勝れ多くはよくして武州に府中にて其居を営み支度不自由なる

営しなくても　秀忠公武州御殿辺へ御座所に移りて
御渡なされとて其後御普請を仰付けられ御門に付て御普請仰付られ候て
尤江戸御城にも右場所より御馬を御渡し在り義宣に御持たせ
其後なさり義宣に男子なく人あり出羽右京大夫を養子にして
男子にも申されしに次男組へ申して年中に秀忠公
御沙汰なさりしより京都大坂所々にて其後右京大夫二男
来る由ときあるかくのとし子なるありて今に於て御知行を
入用なしとて候　家康公は御所御内常州並びに城
御しかる万石に所代として由し義宣は居料に御座候

右京大夫ハ午八歳にして死去男子無之ニ付但馬守兄の家督を
継しに前田孫四郎事之男前田女子へ御娘を嫁し今年
相続之計家ニて御譲代并の勤く
之須　家康公増田長束西丸へ入候ハ此以大老とし
国々之主并城々名目代申上置内ニ石田治部を佐和山へ
遁塞あり御師弾正ニ相定養ニ帰宅之事
治下事とそ
秀頼方御用ニ御付上京いたし候唯今…
仲ト間中…大蔵方ニ相…水口へ

帰国之難之段様子之趣此節大坂表御家人共有之
此頃我等儀大坂西丸へ引移了在所之事共取計と
此ても家之事之儀ニ付て大老より之儀
…此事之又之向後西御城へ移ハ一同大坂西丸へ
成之我等儀共大老中ニ申…の儀之段
今又之御儀ニて不及…之候人数に
…郎西表此御城へ引移ハ則秀家…人大坂
西丸へ引移ハ之之候とそ　内府公乃此儀とて
御在我等へ御中之儀之段…今度大老方への…

[illegible]及中万歳[illegible]西人中に後[illegible]本来大坂西丸へ此移[illegible]
[illegible]伏見の城[illegible]結城秀康[illegible]と[illegible]是迄此家中
[illegible]二十日発乃文代[illegible]作分大坂[illegible]於て[illegible]石田治部[illegible]
堂沢西人屋敷と不富[illegible]作分石田下屋敷[illegible]中て天満[illegible]
大屋敷[illegible]内[illegible]小屋掛出来[illegible]輝さ此家[illegible]方ハ天満
より西丸[illegible]諸番士[illegible]相勤申[illegible]
有[illegible]小本[illegible]露[illegible]沿辺[illegible]版[illegible]右大坂西丸[illegible]移[illegible]
今世上流布の[illegible]源[illegible]九月九日秀頼[illegible]へ此対顔[illegible]
[illegible]より[illegible]西丸へ此移[illegible]方[illegible]記[illegible]
[illegible]田長束中合

内府公[illegible]城[illegible]此[illegible]有[illegible]西丸[illegible]大度間を造[illegible]中分
[illegible]天守[illegible]此池[illegible]新[illegible]造[illegible]此[illegible]書記
有[illegible]此[illegible]実[illegible]中[illegible]
[illegible]京都日蓮宗[illegible]法花[illegible]仲[illegible]新[illegible]不受不施
乃本海[illegible]伏見[illegible]へ双方[illegible]不法[illegible]
[illegible]大坂[illegible]仲[illegible]間人[illegible]分伏見へ[illegible]
此[illegible]此[illegible]此[illegible]許此延引[illegible]西丸へ此移
[illegible]此[illegible]双方[illegible]事人[illegible]大坂へ[illegible]下[illegible]此宮[illegible]
[illegible]後双方[illegible]西丸へ[illegible]此裁許[illegible]此[illegible]人[illegible]

義一宗に関る和別出産及法物並文納及法の義に於ては
宗門に法儀に関する中上に通じ御入秀吉公覧を
経て寺社山に伝職して納経授礼に御上及お懲制へ
配分乃ち旧教拾五箇文納及法の義に有り出産を初め法主事を
御一覧の業科果て拾五箇条に累を日蓮に伝授量り
御手ての作りし業事務所法分はとこ
こに大坂に御上及中京伏見に於ては方大世面人
山城に次者英法御所長政甲府へ逼塞に成と役所法
に及ひ又後に法大に中幕は乃記と中小加賀利長

及逆の企をん法御所長政へ内通して大野方面へ中分
先　内府公法報害成さ世て中上の謀計に及奇形
山府委細に山穿鑿して法御所長政に方拾五箇条の
旧時代世上乃騒動に及ひ義に山者及下部とあ故
内府に思召とん死罪に拾五箇条に方大野方面と山城と法御
法御所長政に重陽に旧屯御に別病気に山者云及中上に
有に御に旧接に小今に長政　内府公に山者と御
身と過に甲斐へ蟄居法に方今に利長に人に方の上に
世に中とん今に水及逆に企に及ひ年内に掛して

支度を調へ来たるに於ては其地丁町之
有所等に類し中解に付達出之もの少に法大名
に渡す大阪土国土色に渡申れ少合せ不苦聊し伏見
大坂に度度へ参り申候に付泉州堺度
に場田長吏出用に渡す西丸へ参り居
内府公西人に出向に付各中に小田筋に渡す行て少及び
申候に渡す之に小田筋に渡す西人に付のに加賀利長
渡を来に付河角藤治に渡す例に渡す
に付に渡に小田筋に渡す　内府公家出用

各中に来に通虚沢に渡へき渡に我れと渡に来に
余人に渡に角に利長抜逆言に渡に通に渡に細に渡に沢
渡に世に風沢類に来に渡に虚実に渡に少乱に渡に
に渡に渡に後渡に又西に渡に出に中に渡に通り
利長反逆に企に方に中解に渡に渡に有に渡に
に渡に小田筋に渡に渡に渡に隠に渡に利長に
内府に渡に有に渡に渡に渡に渡に渡に渡に
逆迷惑に渡に方に中に渡に乃中沢に渡に内府
に渡に内府に渡に渡に渡に渡に渡に渡に

世上風聞ニ及し逆意之企有之條紛ひなき処之在中ニハ
先年ニ存念ニと相済候得ハ増田長束取り成之を指ふる評定ニ候
御挨拶有りし之附　内府公ニ而済候得は利長殿ハ在中ニ而様ニ通り
先年我ら企入候は謀事程候ニ而落着之及ひ土方大野ら承し
更羅ともりし先達而上り候を探りてまし処却て反逆之企ありて
守り八乃罷科ありしハ急度軍勢ニ而差向け征伐しられたる之
事ニて候ニ付て八富清名代我ら有馬下り有在中ニ付
軍勢遣候ニ而そて存候ハ是朝鮮之陣乃諸大名ニ候て
今度出勢之不及今我ら差遣し候是又ニ相謝之しも

ニ而渡井伊直政榊原康政へ被仰出候而向ニ候を相渡候
ニ付是より加賀陣と申候を中絶ニ而先頃丹羽宰相長重
之大坂へ御座候而西丸へ御見廻ニ来り其節井伊榊原両人を
以申し遣其ゟ候ハ加州表へ出勢ニ付差向候ニ付て
内府公よりも御代官として有馬下り之由風聞承り来候
在中之儀御存知之通小松之城ニ候処ニ利長と取合候
候ニ及ぶし上ハ我ら先陣ニ候て存て八中之不候ハ打立
様又為先在中と物語申入置候ニ付井伊榊原両人互ニ委細
承知仕候段ニ候ハ只今　内府ニ而も申候承り申之

はかりとゝ中てゝ之所存ゝ上ハ坂ゝ則うゝ拵ゆゑゝの仰そ
長重へハ對顔ゝ拵西人ゝゝ書紙ゝ認ゝ渡ル智ハ初者へ對
せゝゝゝハ思ゝゝゝゝり感入海津ハ今度金沢表ゝ陣ゝ
於てハ時分ゝ弓矢の定法たゝゝ上ゝ吳福ルてゝゝ方ゝ仰
ハ菓子ハ酒等ゝハ此ゝゝ拵ハ思事ゝゝ上長光ゝハ服ゝを
ゝ下ゝれゝ長重ゝを頂戴入ゝに既ゝ拵ゝ渡酒ゝハ後大坂
中押ゝて加賀陸ゝ中解ハゝ分ゝ沢立大坂ゝ法人名の中
ゝし加賀家へ入魂ゝ方ゝり利長ゝ方へ内通ゝ事有ゝ
ハゝゝ能中細川忠興ゝ縁者ゝ中入魂ゝし有ゝゝ分

使者を差越及遅ゝ旨於実事ハ無之ハ次第ハ者又虚説
ゝに於てハ中間ゝ渡ゝの儀ゝ有ゝハゝ一切ゝ及ゝ
儀ゝて行方ゝ遣ハゝ利長ゝ舍弟能登ゝ利政ゝ和泉
ゝ名ゝ集ゝ相談ゝ上ゝし横山山城ゝ長知法使ゝて
今度ゝ事ゝ於てゝ者ハ稱ゝの雜説ゝ及ゝ仕影
響入ハ者ハ虚説ハ源ハ銀ゝ如ゝ乃ハ秋細ゝ使者ハ上ゝ
中上ハゝの旨を自筆ゝ認ゝ渡ハ分山城ゝ大坂へ渡ハ家臣
ゝ一帝方へ長盛井伊直政ゝ参者ゝ様ゝ所中上ハ処ゝ不審
所見ゝ上ゝ分者ゝ渡ハ西丸へ参ハゝ

内府ゝ上ゝハ上

限りに於て清庵井伊掃部西御家老中を始めとして府中
御府の左右に於て密談有中へ云々書状を附山城守并其情事
より利長の書札を以て密に差上候て井伊直政並兄弟へ
於茶事中に於て御目にかゝり篤と済されて候て御前にて是
直政か府中に之候事に付山城守へ此旨を以て申上候に付て
藤堂有とやらんに於て御前へ申入山城守に於て申上けれは主人利長
儀大閣様之御厚恩を忘却仕亡父大納言之遺言を背き幼君へ
不忠別心有之所にては悪名を遁れ難く是非利長相続を以
され及逆心企て及ひ候由山城守讒言を加へ押へ留め申

儀に付論之儀には及はす不届之儀にて候所より御赦免を
於ては利長儀をも不及申上我等か一分相立申様にと只今迄差上
内府公深く御思案御気色にて候所利長謹慎企有之に付
南部大膳大夫並浅野長政父大納言之遺言之儀をもつて今度へ申し越後
輝元秀家の両人も候て朝鮮在陣の労を以て御勝ちに御
入部不被成候ては不叶旨にて兄方に此所を申請て及候
国元へ立今般反逆之企有て良久々来なりけると御
只今も申上候様にて猶将軍家来有之右の次第を
考ふ時節世上風説之賑合候へし利長反逆之有り

鍋氏ニ対シ之ヲ拒絶ス人ヲ使ハシテ之ヲ於テハ
早速下坂迎来リシ方ニ成リタルモノ故ニ有之藤仕
迎ヒタル事ヨリ為ニ兵庫ヨリ指シ之レ
山城ヲ降ス十二月ニ成リ言上仕リ候ハ
是非ニ及ヒ利長方ヨリ若干書状ニ成シ渉投見
ヲ経テ不度合歩成方ヘ向ヒ十二月ニ相ハ布ニ成四九ヲ拒
絶ハ歩成ニ対シ之ヲ投及ヲ拒絶ニ成
汁ヨリ誓詞ヲ渉弱ニ附山城ヲ取去年八月摂渉化
界ニ長市ニ迎ヒ西宮ニ有ニ名神文ヲ

誓詞ヲ渉ヲ以テ及十万貫若布誓詞
御鉄ヲ拒ニ於テハ時ニ援百万枚誓紙ヲ若干及ヲ
同ニ長ニ事ニ事務多御ニ利長年ニ人ヲ
御仏廟ニ実不実ニ渉ヲ不申拒ニ
事務方十二月ニ老角ニ渉ヲ如ク渉機縁ヲ為
渉使ニ渉ニ為ニ渉代毎成芳春院ト家ヲ内ト相添ヲ若干拒
ヲ成ニ作ヲ為ニ山城ヲ取リ芳春院事ハ利長利政兄
弟ニ御ヒ仕ヒ為ニ事ニ私解ニ率ニ渉ヲ弧
及ヒ十二月ニ方中知ニ於テハ加州ヘ帰

利長へ之所中達ハ指ゝ作之者山城ヶ守帯と退ハ仕之日
大坂と取之ハ之ハ右山城ヶ守帯ハ之ハ之ハ次ハ
人名ゝ家ゝ於て家老職とし相勤る者ゝ能ハ知ハ
之ハ細川家中ゝ之ハ法之ハ流山城ヶハ金沢へ移
内府ゝ之ハ紙と中達之ハ利長ヶ舎ハ利政を始め
家老ゝ面ゝ成之ハ集内評ハ利政ヶ之ハ同心ゝ口振
ハ之ハ家老ゝ面ゝ一統　内府ゝの出馬を待遠肖
あゝ之ハ中ハ名中ハ利長ヶ之ハ毋成芳春院ヶ
家老ハ之ハ芳春院ヶ之ハ　内府ゝ使札

を仙中ハ之ハ後毋成芳春院ヶ村井豊後山内房内人ヶ
ハ之ハ之ハ和泉守中旬ゝ成ハ大坂へ芳ハ之ハ加賀陣ヶ為ハ
和止ハゝ之ハ後　内府ゝ始田長束内者ハ成ハ利長
ハ今度毋成芳春院ヶ家老ゝ子ハ之ハ添て芳ハ之ハ有ヶ我ハ
ヶ和談ヶ申ヶ之ハ之ハ内府ゝ之ハ成ハ芳春院ヶ武州江戸ヶ
芳春院ハ一度ゝ名ハ之ハ成ハ作ヶ之ハ之ハ内人ハ之ハ中ハ
ハ今度ヶ之ハ人ヶ成ヶ行方ハ芳春院ハ加賀ヶ中ヶ
ハ古人関係時代ヶ之ハ成ハ對て沖人ヶ有ヶ成ハ格別
和ヶ之ハ人ハ之ハ習者ヶ成ヶ出家ハ之ハ成ハ芳春院ハ輝元秀家

[illegible]

名字如之一説なきに非ざれども去ぬる[illegible]に対し
逆心有し事を[illegible]我出家となりたるものなれば
如何ぞ[illegible]に於て迷乱の沙汰を制り成敗
人倫を厚くして世の乱を治むべし[illegible]の
部人[illegible]人切腹[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

内府公[illegible]

[illegible]
中[illegible]長盛[illegible]毎[illegible]家[illegible]
[illegible]
[illegible]
法[illegible]天下[illegible]騒動[illegible]年[illegible]
[illegible]
小[illegible]賢[illegible]時[illegible]

内府公長束

政事[illegible]利長[illegible]

沢こし有しとて毋成芳春院を関東へ差下し分我出へ対
面致し為参し有しに於くハ支しと存乃事しく存押て
差下て申候と存しも為申左様こ事申し有しと分
我出方より利長しへ書状とき一通遣し候く
我出しこ不参有しに成ちと存しと芳春院人数
参詰こ成ちと申上こに不及候遣ましく之後　内府公
より利長へ清書をとり徳川加州こ留居と云ハ人切こ
出用をとり清書こ不参しに成ちと存候内書とり成
ハ分別使者とん今度へ参ハ利長内書と云ハ投入

金井利政と申者参と唯者お渡有しと知ら能也利政
大こに成不興ち相しに成有しと為て内府
ハ上方おこハ完茶屋陣と大坂へ迎也者こ為
有こ別思案しなくて内府御心知こ成ちと存
事こハ茶屋陣と京御番こ世ハ有ハ面倒成
ちの能毋能中辯元秀教宗勝の下墨こ御り下
候しん御こ事に能こ御才者有こ且迎者下候ハ
時利政こ於て二心御ちと事ハちこ内利長利政へ
事ハ下候ち一分一意こ毋成宗ら渡有ハ小者武士こ

事ニしは殿下ニ国影ニ主を滅りしに付者ニ身の上に於ても
代の豊臣家ニ與せしと考へをめることは所業ニハ無之事又は
ニ有ニて後家康公に向ひ芳春院殿ニ事秘かに申しとは
内府公ニ於ニ聞せ東国に於ても此へ申し及ぶ近習の者
共と下知せ事済て後急ニ角ニ思召次第ニ而近習
并鍛冶ニ付加州留守居役ニ昔を西丸へ召出し芳春院殿
江戸当次第江戸者へ差下しは夜中中納言方へ利長方へ
中鍛冶の川ニ渡り申て候事御意被成　内府公より
御用被下候事無之其し候得共未来に於て世上ニ噂ニ致候

然後ニ御しく下賤早々近頃申す被仰居と云様しまる人への儀
なれはと思ふに付ても不自由不成様如し家臣共し候とて中村
は芳春院には聊も是非なき様ニし法度ニ申うを抱前を従ひ
翌年ニし五月廿日芳春院殿被召を以て六月二日に江戸へ出
立被成しと也
右之義世間流布の旧記に皆慶長度相見候ゆへ書記しし追有之
秘かに書留置きし大概納め物語にし聞ては土井大炊頭殿物乃雜談
あしましは節し中語伝りしものは有之を実説と之を極きと
存る也

同年十二月初旬　　内府より浦田喜兵衛殿へ被仰付

御くすり方相違之儀及ぶ通、来年二月雪野と好出候ゝ

迫年ゝ国元を放れ居り候ゝ今日は浦ゝ雪の居相ゝ

忘れ候ゝ有ゝ候ゝ元の通無事ゝ世上ゝ静ゝ

有ゝ度ゝ思召ゝ雪野の御ゝ野ゝ出度ゝ思召ゝ

小雪の一居ゝ出ゝ候ゝ様ゝ被仰ゝ元の新一居ゝ

有ゝ之ゝ長崎形ゝ作ゝ之ゝ被仰ゝ出雪地ゝ被ゝ

浦ゝ易ゝ思召ゝ平ゝ中ゝ新ゝ相ゝ被ゝ

中度ゝ長崎水口へ被仰付　　元様私西人

ゝ浦ゝ浦ゝ浦田ゝ仕ゝ元ゝ民ゝ無度ゝ雪地ゝ

ゝ被ゝ仰ゝ浦ゝ相ゝ仕ゝ市ゝ雪ゝ方ゝ支配人ゝ

浦ゝ浦ゝ浦田ゝ被ゝ仕ゝ中ゝ浦ゝ人ゝ国ゝ世ゝ時ゝ雪ゝ

ゝ市ゝ時ゝ支度ゝ御ゝ御ゝ家ゝ織田有楽細川

幽斎有馬法下今出法下毛利法下山崎道斎岡江宮

前波ゝ入ゝ御ゝ家ゝ井伊直政榊原康政酒井忠次同

忠利福ゝ伯耆ゝ浦ゝ引ゝ下ゝ伯ゝ浦ゝ播州茨木へ

ゝ拾万石一宮ゝ千石の支配川尻肥前守宗久法眼ゝ元上

明之ゝ日西九へ浦田西人方へ使ゝ元附服

[illegible]

明良洪範

神君ハ虚ヲ言ヒ輕薄ハ大ニ嫌ヒ玉ヒ直ナルモノヲ御好ミ片ヨリ玉フ事ナク賞罰ヲ明ニ功アルモノ、不倦様ニ自然ト勤ニ怠ルモノ、励之出ル様ニ被遊功有者ノ倦様ニ成テハ其家次第ニ裏國家ヲ失ヲ是第一ニ心ヲ可付處ト常ノ御詞也亦物事片ヨル所アレハ過チ多ク敵ノ爲ニモ被計安シ

鷹ヲ御コノミ被遊故依之マイスニタマサレ玉ヒタル事有是片ヨリ玉フ所ニヨル妖モノ也淺井兵庫トテ鷹ノ名人被召抱御出頭ノ命時御供ス御秘藏ノ鷹ヲ見血筋出タル間被捨置ハ頻テ落申サント申上吾宿江ス工來リ無程血筋ヲ直ノ上ル故倍々出頭ス然處ニ甲州一條ノ後家ヲ三宅彌次兵衛妻ニムカヘントソ言上ノ處ニ甲州歴々ハ公家ノ娘ヲ呼取ト聞及ハセラル左ナクハ呼取可申男子ニテモアラハ御一家之中エト思召トモ男子モナケレハ三宅ニ早々呼取レトアル故淺井兵庫是ヲ取持トテ　家康公ヘ被召呼抓

ト甲州ヘ申遣スト本多正信聞出シ言上ス大偽ヲ申者成敗
仕レトアルヲ聞テ早々欠落仕蒲生ノ家エ行奉仕ス其節ハ
大事ノ藥ヲ不申上トテ　家康公悪クミ殺サルヘキ波
汰候故立退ト言廻ル后ニ探リ出サレ伊奈熊藏ニ仰テ成敗
シ玉フト也前キニ血筋ト申上タルハ紅粉ヲ引血筋ト見セ
タル謀議迫顯レニケリ
増譽曰　神君サヘ其好ミ玉フ取ニ依テ浅井カ奸謀ニ
迷ヒ玉ヒシ能々心ヲ用テ物ニナツミ溺ル、事ナカレ愛ニ
ヒカレ偏ニ溺ル、事世ノ中ノ常也ヒトヘニ溺レテ害ナキ

ハ忠臣修身ノミト宣フ
家忠日記
此年　台德院殿ノ　御臺（崇源院）伏見ヲ出テ江戸ノ城ニ
御下向アリ此年荒川次郎九郎伏見ノ城警衛ニ在テ卒ス太
申ノ年松平三郎四郎定勝カ三男三郎四郎定綱ヲ以テ荒川
カ養子トス然リト雖荒川カ家臣等志ヲ一ニノ荒川カ氏族
ヲメ其家ヲ嗣シメント訴ル千時　母公（御太方ト号ス）太年ヨリ家督
ヲ堅ク約スルノ間三郎四郎ヲメ荒川カ遺跡ヲ継シムヘキ
旨頻リニ憤リ給フ　大神君ノ曰三郎四郎何ソ他姓ノ
遺跡ヲ願ヒ継ンヤ彼レカ成長ノ後采地ヲ授与センコト荒

川カ遺跡ニ倍スヘキノ旨命アルニ依テ　毋公ノ御憤リ止
ム此年　大神君ノ命ヲ奉テ水野三左衛門尉分長（後ニ備後守ト号ス）
大番頭トナル阿部左馬助忠吉ヲ歩行頭ニナサル采地五千
石ヲ賜ル
此年植村新六郎家次卒去（三十歳）
此年安藝中納言輝元カ男藤七郎秀就（後ニ長門守ト号ス）　大神君
ヨリ榊原式部大輔康政ヲ御使トメ御袴ヲ賜リテ是ヲ着ス
此年十月十一日從五位下ニ叙シ同十二月八日從四位下ニ
叙ス

年ともなれは例のことく慶長五年正月元日乃御嘉例
内府公にも本丸へ出御有て秀頼公御対面の後年首の御
祝儀を御述西丸へ御かへり有しところその[illegible]左
大坂に大名小名ともに本丸に出仕して帰り掛に太刀
折紙をもて御礼に来りて秀頼公御旗本諸番頭
諸役人にいたるまてのこらす家康公へ年始の礼ありて
五ヶ日に御成て西丸にて玄関まへ諸大名並諸役人出て有し
也かくて同月中旬まて[illegible]大坂乃諸大名
その外諸番頭諸役人ともまても御饗応て有しかは

ゆゑ[illegible]秀吉[illegible]樂を石[illegible]に能奥州[illegible]
られ[illegible]分西丸別[illegible]て[illegible]ゑ[illegible]古人間の威勢
くら[illegible]ゆ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]海道筋中納言秀家[illegible]家ゑ[illegible]浮田左京
亮川肥後[illegible]城筋[illegible]房志[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
長崎城中[illegible]家ゑ[illegible]ゑ[illegible]病死
ゑ[illegible]又[illegible]城家[illegible]ゑ[illegible]
[illegible]筋[illegible]朝鮮国[illegible]病氣[illegible]

なり[illegible]秀家自身[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]分[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
豊筋[illegible]城筋[illegible]長崎城中[illegible]世界
又[illegible]ゑ[illegible]城中[illegible]
[illegible]滅[illegible]
[illegible]分[illegible]秀家豊筋[illegible]用[illegible]
[illegible]紀伊守[illegible]家[illegible]中分[illegible]紀伊[illegible]
中村[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

二千石を出し清華一万石の儀を紀伊守次郎兵衛へ内々
申渡し候右四人の者共を抱候て分紀伊守
同じく是迄紀伊守ハ急病と偽り牧元同道ニ相集ル四人の
家老共紀伊守ハ毒薬と呼へく報申し件の
次郎兵衛秀家へ明日を以四人の者共を召寄り其所へ
召て秀家四人に限り其場に居合ハ者共を親父
忠家公并一家共ハ清田右京亮ハ世上に義侠を
武功の者と中々上清田左京亮ハ親類中たるを
通達し候ハ故如く右次郎兵衛已の新参清華
并家長松紀伊守ハ如く成人共を呼寄せ
用意の家臣前中に家集ハて密談を凡ハ彩色ひ
四法寺乃ハ家老共中ハ別段四人に家
老共少及ハ呼寄せ歩行ハ乗ハ中村の四人に
云を申しまた所に限り迄ハ限りたる成られ上へ
相集ハ上に凌辱を加方家老中右ハ法ハ方中村方へ
少へ次郎兵衛方の者共一業迄一ハ人に抱別家中
抜刀ハ者人に抱別家中
ハ方家老方中村方と二ツ成人ハ成

大審刑法補説と題する日記を秀家と入魂なるに付き時々相談
相原庵へ来る浮田家お入し成と申す
内府公多く禁酒へ成り申候ハ初者の四時代と有之ハ
酒ハ世上静謐なる様ふと思召しの成り申候ハ如今度浮田
家滅亡の御ふ様ハ酒ハ乱毒なとて思召
なり申候ハ史上有之候秀吉公成と申打ゆくして
支那ハ酒度申候庵原ハ酒なし
四月九日ハ去年ハ浮田殿ハ
ゆく相別申度入用なし申候事中

第一公儀ハ内蔵許なる御出家ハ蔵出家ハ出ハ有之
御ふ浮田殿ハ浮田殿ハ中ハ御ふ様ハ
四時代と有之ハ大名ハ家ハ所領ハ庵原
酒ハ酒ハ酒度ハ上ハ相原ハ酒ハ
内ハ支那ハ相入禁酒ハ大名ハ相原
出家ハ酒ハ支那ハ酒ハ
相原ハ代ハ岩ハ酒ハ庵原ハ酒ハ及
浮田家ハ上ハ庵原ハ酒ハ
行ハ内府公ハ相原武

も内府へ敵し給ふと聞えしかは来時表にて返留は大谷と申合浮田黄門と
談合しかはゆへを持して関東へ御出陣ハ行れし故のかく
穂積中にて存しハ三の組をもし上へ参らせしを此して大名の家の
世話をも申聞沈思して既に御出陣有事て御遊断なとし有し清云
こと各召しを取寄せハ廣政として入魂を通しもかくしても有
望羽柴中納言殿も花を参る度前ケ様に御出立済候殿中
二ツ三事までも及ひ候へと有廣政来りし此段述悪く識て文度を調へ
其日の暁方より支度して大坂を出て候別に大谷方へ行し由候状を
出夜ともなり大谷方より返事を見すして次井とて今かく存て通
穂度なりしは聞えしかれハ多の御あつかひ大谷左衛門なり
とて浮田左京亮射方へ使者遣し委細を談話　淺川殿へ
旅の御出陣ありてあれは御機嫌も有るに如此　内府公には
人もし事ありて旅して悪役の義をも及ひもそのうへ偏に御神助へ
も敵対なく御しに今日より以後浮田の事に致しおかれ候
会津の上様には唐人のかく左京亮射見えしにかかりも又候合せて御
ことしそれへ申され御出陣事ハ　内府公は敵へ参りて候
内府よりハ申給へしかとも御参陣の御別に候となり此ハ浮田車内へ
より事浅見ハ此度の相違なくそれ申しまゐらせし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠江国志摩郡[illegible]人少くして掃部介と中村左[illegible]
と再度[illegible]と[illegible]秋[illegible]と[illegible]右[illegible]と[illegible]
[illegible]時[illegible]掃部介[illegible]
[illegible]入内[illegible]支度[illegible]
乃清[illegible]
[illegible]
[illegible]

五叶寅どんこと天を五出ス成し人と共に我れ中津くしに付上
こと様又理屈と有しかり京ゆ出ると明石と面色と変て
中こ有次第者一言し思ふ出し及ひ上て変し角しこと
四外こ付と金と中こ対支蔵ふ後風雨烈敷夜陸し終れ
義を為こと人只た十人計の中に次第者と元関こ成敗と本
し事海ひこと後秀家ゆ前田玄以法印増田長盛ゆ書状
こ方へ出家し家を以届こ来有し出ス四人立に義存
の者こ陸こ出て自分は宗法本脇坂方ゆ戸川不
成こ家の取こ有

内府公へ手紙を書り中京十上ひ出し

西丸へ四人方に秀家ゆ秀家法法御日に出り
四人方こ手紙ゆ上ひ出ス四人方に秀家法法御日に出り
肥後西人こ前田徳善院へ四人ゆ金房志ゆ関誠前西人
と共増田長盛ゆ府へ手紙こ方法法こ自西丸こ出ス聚山
飛山へ手紙ひこと

右原田家譜動し成田記こ書記有し出ス本こ法八又後ゆ
浮田こ対人世御理方へ明石掃部夜掘寄こ承成ひ前
御理へ福島法ゆ出ス茅村将監ゆ浅井周防守へ
中十ひ方周防ゆ成ス書こ留有ひ証こ諸侯不虚成こ

有之尾合之下向之江戸屋敷ヶ又ハ銀林寺ヶ
懇居の仕合ヶ有居て中し候人積ヶ江戸表（芝浜ヶ
出ヶ）ハ成わ〳〵と此処ヶ
秀忠公御前（京ヶ大坂表
ヶ方陽ヶ成拵ヶ為ヶ拵別出相ハ〳〵ヶ料理ヶ不宜又ハ
御膳方ヶ（振色ヶ）ヶ出ヶ成ヶ為ヶ成ヶ為ヶ対面ヶ以茶
ヶ拵ヶ為ヶ成ヶ為ヶ成ヶ為ヶ大坂表（ヶ為ヶ名不審
思ヶ為ヶ拵ヶ為ヶ次ヶ人ヶ名ヶ為ヶ事ハ〳〵ヶ為ヶ御ヶ内ヶ
内府ヶ為ヶ病気ヶ為ヶ成ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ
様ヶ為ヶ〳〵ヶ為ヶ人ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ

内府ヶ為ヶ人坂

ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為ヶ為

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

感狀記

稲葉内匠ハ備前中納言宇喜田秀家ノ長臣也怨アリテ出奔セントス然レトモ笹地兵庫カ武名ヲ惶レ笹地騎士將ニテ其組下ノ侍多ク剛梟人ニ超タル者也稲葉年來笹地ト不相好然レトモ笹地与力セスハ所欲遂カタカラント思ヒ使ヲ遣シテ我當家ヲ出奔セントス我存亡ハ貴殿ノ向背ニアリト偏ニ頼ミタリケレハ笹地則兼引シテ稲葉カ宅ニ來ル稲葉笹地カ恩ヲ荷ヘリト云テ禮謝不斜稲葉ヲ來リ訪者アレハ玄関ニ出向ヘテ書院ニ請シ入姓名ヲ記テ強テ稲葉ニ与シテ同ク出奔セシム皆脅シテ從之從者八人ヲ其家ニ遣シ

テ質トス上田土佐ハ鉄炮頭ナリカヽル夏氏不知稲葉カ家
ニ行ケレハタノモシクモ訪ル、者哉定テ稲葉ト浮沉ヲ共
ニセラルヘキトノ意ナランテ姓名ヲ記サントス否ト云
ハヽ忽討景スヘキ氣勢ニテ壯士七八人膝モト近ク居寄タ
リ上田罵之云ク御邊達ノスル所サラニ不心得唔友ハ一且
ノ礼ナリ事君ハ終身ノ義也友ヲ助テ君ニ倍クノ理ヲ不知
御辺達自ラ不義ニ陥ル夏ヲ不愧ノミニ非ス部テ人ノ義ヲ
守ルヲ害セントヤ況以威武ヲ我ヲ屈服セシメントノ仕形
悪逆ノ至ナリ我亢ヘハ失フ氏我節ハ奪ルヘカラス稲葉此
座ニアラハ刺チカヘテ主恩ニ可報ヲ認合サレハカナシト
云テ刀ノ柄ヲ握リ坐中ヲハタト睨ンテ立テ帰ルニ其勇猛
ニヤヲソレケン又義理ニヤ服シケン皆手ヲサス者モナカ
リケリ

武徳成業卷之三十八終

内閣印書

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan